

# 太陽光パネルで自家発電スタート

## 本社工場屋上を活用して

㈱レザック

レザック(大阪府八尾市、☎072-920-0394)は、2011年2月28日より同社の本社工場、社屋屋上に最大発電容量60kwの能力を持つ太陽光発電設備が稼働した事を明らかにした。

同社は、抜型加工を行う菱屋を母体に1982年に設立。CADシステムを始めサンプルカット機、レーザー加工機、刃物自動曲機・切断機から印刷紙器のプランクスと落丁部を自動的に分離させるプランキングシステムなど抜型関連機器などを製造販売してきた。同社の特徴は85件(2010年3月現在)もの特許を取得している開発製品と、部品加工から最終製品まで一貫生産できる製造部門の充実があげられる。関連企業で屋外広告看板の受注、製作や、レーザー加工分野での産学連携によるフェムト(1000兆分の1)秒レーザー技術にも取り組んでいる。

そうしたなかで2008年8月、それまで八尾市内3工場に分散していた製造部門を集約した現在の本社工場に移転した。敷地面積1651㎡、建築面積970㎡3階建ての規模で、最新NC加工機械やクリーンルームの検査室も設けている。

今回、同社屋の屋上部分ほぼ全面に太陽光発電装置を取り入れた。太陽光モジュールの総数は312枚で、1枚あたり205wの発電容量を持っており、最大63.96kwを発電、パワーコンディショナーにて最大60kwの電力(3相200ボルト)を供給することができる。同設備により工場で使用する電力の一部をまかない、余剰電力は売電を行っている。総工費は約4500万円で、一部助成金を得ている。

田中誠太八尾市長(左)と  
榎本社長



太陽光パネル

### 東大阪地区では最大に

今回の発電設備は、関西電力東大阪支局の管轄では最大の発電容量となる。同支局によれば、これまでは10kw程度の発電設備が多く、最大でも30kwであったとしており、レザックの設備はこれらを大きく上回っていることになる。発電量は季節や時間帯、天候にもよるが、夜間や休日にも稼働しているために、電力会社に販売することができる。また発電状況は社内の「太陽光発電計測システム」モニターで観測できる。

今回の取り組みについて、同社、榎本忠二社長は「産業界においてもCO<sub>2</sub>削減など環境問題への取り組みが行われているが、当社も太陽光発電で貢献したいと考え、昨年から取り組んできた。今回の大震災では電力事情が問題となっており、微力ではあるが自然エネルギーの導入で環境にも貢献していきたい」と語っている。

なお3月17日には、地元の田中誠太八尾市長など関係者を迎えて、見学セレモニーが行われた。